

## 東京中央区で連携講座開講 本学教授 4人がオムニバス形式で登壇

本学研究推進産学官連携機構と東京サテライトオフィスは11月7日から、東京都中央区の文化・生涯学習「中央区民カレッジ・まなびのコース」で、連携講座「科学技術の最前線」を開講しています。築地社会教育会館（同区）で、同28日までの毎金曜日に4人の研究者がオムニバス形式でわかりやすく研究成果を発表していきます。

11月14日に開催の第2回目は、大学院社会文化科学研究科の新納泉教授が「コンピュータ考古学からみた前方後円墳の設計原理」の演題で講義。前方後円墳について、デジタル測量などにより、明らかになったこととして、各部位の長さが基本単位の倍数で構成されること、また、非文字社会最高の技術水準の設計であることなどを話しました。



東京サテライトより花岡 URA の挨拶



説明する新納泉先生



質問に答える新納先生



会場の様子